

豊岡市記者配布資料

年月日	部課名	電話	責任者 (役職名)
2023年 9月25日(月)	教育委員会 教育総務課	0796-23-1117 (内線 2701)	木之瀬 晋弥 (課長)

(件名)

竹野地域に整備する小中学校の学校種を「義務教育学校」とする方針の決定

(内容)

竹野地域に整備する施設一体型小中一貫校について、9月22日に開催した定例教育委員会で学校種を「義務教育学校」とする方針を決定しました。

今後、2025年度の開設に向けて必要な協議を行い、2024年12月議会に関連条例の改正案について諮る予定です。

これまでの経過などについては、別添の資料を参照してください。

《問合せ》

教育委員会教育総務課 学校再編・施設整備室

(担当：野崎) TEL 0796-23-1117(内線 2705)

竹野地域における施設一体型小中一貫校の学校種を 義務教育学校とする方針について

1 はじめに

2021年12月に策定した「豊岡市立小中学校適正規模・適正配置計画」において、竹野地域では、竹野中学校の敷地内に小学校の校舎を新たに設け、施設一体型小中一貫校とする計画としている。

この計画に基づき、2023年2月24日には、竹野地域の代表、小・中・未就学児の保護者の代表等からなる「竹野地域小中一貫校開設準備委員会」（以下「開設準備委員会」という。）を設置し協議を進めている。

2 学校種の検討の経過

施設一体型小中一貫校の類型として、同一敷地内に小学校、中学校それぞれを置く併設型と、2016年に制定された新たな学校種である義務教育学校がある。

教育委員会では、新たに整備する小中学校について、いずれの学校種とすることが望ましいかについて、開設準備委員会に意見を求めてきた。

調査・研究を行う中で、一つの教職員組織とすることで様々な取組の工夫が可能となり、より良い教育効果が期待できる「義務教育学校」としたい旨を教育委員会から提案し、これまでに、5月26日に開設準備委員会の委員らとともに鳥取市立江山学園への視察、7月24日に保護者向け説明会等を行ってきた。

3 開設準備委員会の意見（結果）

8月30日に開催した第3回開設準備委員会では、保護者説明会の結果を踏まえ、学校種について最終的な意見交換が行われた。

委員からは、

- (1) 保護者説明会の意見を見ると、義務教育学校という制度に賛同し、その教育に期待されている意見が多いと考える
- (2) 様々な効果が期待でき、特色のある取組が行える義務教育学校として、地域や保護者が一緒になって、新しい学校を作り上げていくことを望む等の意見が出され、「委員会の意見として、新しい学校を義務教育学校とすることが最適であると判断する」としてまとめられた。

4 教育委員会としての方針

開設準備委員会が視察や保護者説明会等を経て、何度も協議を重ねられたうえで、学校種についての提案を了承されたことから、教育委員会として義務教育学校とする方針を決定し、今後、必要な調整を進めることとする。

その中で、義務教育学校の開設という大きな目標に向かって、保護者、地域及び小中学校が一丸となって取り組めるこの機会は、「地域とともにある学校」として非常に重要な機会であるものと捉えている。

市の3つの教育課題[※]への対応をより効果的に行うためにも、義務教育学校だからこそ可能となる様々な取組について、皆さんと一緒に検討していきたい。

※学力の向上、不登校児童生徒の増加、特別な支援が必要な子どもたちの教育的ニーズへの対応

竹野地域における施設一体型小中一貫校の学校種別を 義務教育学校とする方針について

1 これまでの経過

年 月	内 容
2021年 12月	豊岡市立小中学校適正規模・適正配置計画を策定
2023年	2月24日 第1回開設準備委員会を開催 ・委員の委嘱（委員20名、オブザーバー1名） ・正副委員長を選任 ・開設準備委員会での検討項目について
	5月26日 鳥取市立江山学園視察 ※開設準備委員会委員10名参加（オブザーバー含む）
	6月26日 第2回開設準備委員会を開催 ・視察の報告・感想 ・義務教育学校についての意見交換
	7月24日 竹野地域施設一体型小中一貫校保護者説明会を開催 ※参加者55名（開設準備委員会委員含む）
	8月30日 第3回開設準備委員会を開催 ・学校種について 「義務教育学校」とすることで意見がまとまる ・校名・校歌・校章について ⇒ 継続協議 ・部会の設置について ⇒ 3つの部会を設置

2 竹野地域施設一体型小中一貫校保護者説明会の結果（主な意見）

- ・教員として、小中と分けてしまわず、9年という長いスパンで、1人ひとりの将来について、みてやる事が出来れば、もっと子どもたちを伸ばせてやれるのに…と思うこともある。1つの組織で一貫した教育が実現すれば、とても良いことである。
- ・魅力と期待を感じている。より充実した教育を、これからの子ども達に経験させてあげられることを嬉しく思う。そのためにも、一刻も早い開設をお願いする。
- ・施設一体型小中一貫校には、期待している。年代を超えた交流、弾力的なカリキュラムの編成に取り組んでいただきたい。
- ・義務教育学校とすることでのメリット・デメリットや実際の効果等、データが少なすぎて判断できない。

3 第3回開設準備委員会の結果（主な意見）

- ・保護者アンケートの結果を見ると、多くの保護者が義務教育学校に期待していると感じた。施設一体型小中一貫校より更に踏み込んで、義務教育学校とするべき。
- ・いろいろなメリットや、自由に学校を作っていくことができる、義務教育学校でぜひとも進めていただきたい。良い学校があるから、引っ越してきてここで子育てしてみませんかというようなこともアピールできるような、そんな学校に作り上げてほしい。
- ・様々な効果が言われているが、義務教育学校で職員室も一緒になり、子どもたちの情報共有が自然にできることは、間違いなくプラスになると思う。

4 今後の協議内容

今後、部会（別紙資料参照）を設置し、専門的な議論を開始する。

必要な協議終了後、2024年12月議会で関係条例の改正を行う予定としている。

（学校種、校名、学校の位置が正式決定となるのは、条例改正後となる）

義務教育学校とは

小学校～中学校の義務教育を一貫して行う仕組みとして、2016年に制定された新たな学校種別。小中の区切りをなくし、1年生から9年生とし、教職員組織も一つとなることで、いわゆる中1ギャップの解消や、中学校の教科担任による小学生への指導等、学力の向上にも期待できる。

	義務教育学校		小中一貫型小学校・中学校	
			中学校併設型小学校 小学校併設型中学校	
施設の形態	施設一体型	施設分離型	施設一体型	施設分離型
修業年限	9年 (前期課程6年、後期課程3年)		小学校6年、中学校3年	
組織・運営	一人の校長、一つの教職員組織		小・中ごとに校長、教職員組織	
免許	原則 小学校・中学校の両免許状を併有 ※当面の間は、小学校免許状で前期課程、中学校免許状で後期課程の指導が可能。 ただし、中学校の教諭の教員免許状を所有している者は、小学校で、所有免許状の教科に相当する教科を担当することができる。		所属する学校の免許状を保有	
教育課程	<ul style="list-style-type: none"> ・9年間の教育目標の設定 ・9年間の系統性・体系性に配慮がなされている教育課程の編成 			
独自教科の設定	○	○	○	○
乗り入れ授業※	◎	△ 移動に課題	○ 調整に課題	△ 移動、調整に課題

※乗り入れ授業

中学校の教員が前期課程を、小学校の教員が後期課程の授業を受け持つ等の指導の工夫。

中学校の教科担当からは、より専門的な指導、小学校の教員からは、より丁寧な指導が期待できるほか、教員のスキルアップにもつながるとされている。

(参考) 義務教育学校は2023年度時点で兵庫県内に8校
但馬内には1校(養父市立関宮学園)ある

竹野地域小中一貫校開設準備委員会 組織図

全体会

主な検討事項

- 学校種別の検討
- 校名・校歌・校章
- 施設整備の内容確認
- 各部会での検討結果の確認

教育委員会・
学校に提案

部会

みんなで!

学校応援部会(仮)

主な検討事項

- コミュニティスクールの設置
- 地域行事(学校関連)のあり方
- 開校関連行事

PTA分科会(仮)

主な検討事項

- P T A 運営
(規約、役員体制、行事)
- 制服・学用品等

魅力ある!

教育課程検討部会(仮)

主な検討事項

- 地域で育てたい子ども像
- 学年段階(ブロック制)
- 教育課程の編成の検討
 - ・ 9年間の教育課程
 - ・ 竹野ならではの特色のある教育

保護者も参加!

ワークショップ開催

報告・提案

指導運営部会(仮)

主な検討事項

- 教育課程検討部会の検討内容を踏まえた検討
 - ・ カリキュラム
 - ・ 校訓 ・ 教育目標
- 義務教育学校の特色を生かした取組み
 - ・ 教科担任制(前期・後期連携)
 - ・ 学校行事
 - ・ 異学年交流、合同学習
- 部活動のあり方

児童・生徒の意見反映

- 校則
- 制服・学用品等

保護者・教職員の意見反映

- 地域の目指す教育
- ブロック制
- 特色のある教育